第一回The World Meeting of Popular Movements　教皇フランシスコ挨拶

旧シノドス・ホール

2014年10月28日

半訳　by齋藤　20190315\_2

（日本語では意味のとり難い箇所を赤字で示した。）

今日も清々しい朝、皆さんと一緒でとっても幸せです。ひとつ秘密をお教えしましょう。実はこの旧シノドス・ホールへ来るのは私、初めてなのです。前に来たことはありません。だからこの旧シノドス・ホールで、私と皆さんが一同に会すのはちょっと楽しい。皆さんを暖かく歓迎します。

まず何よりも、排斥や格差に身を以てつらい思いをした皆さんが、今この地上世界に影を落としている深刻な様々な社会問題を話し合おうとの招待に応じて下さり、集まってくださったことに感謝します。また、枢機卿タークソンにも、あっ、有り難うピーター、大会準備に骨折り、今は大会開始の挨拶をしてくれて本当にありがとう。君にも礼を言うよ。

さて、この草の根運動の会合は「時の印」、素晴らしい時の印です。何故なら皆さんは、神、教会、全てのpeoplesに対して、しばしば沈黙の内に秘されてきた（訳注：量子論が発見したhidden realitiesを含む）realityを、携えてきて下さったからです。injusticeに苦しんだ困窮者達自身が、それに立ち向かおうとしているのです！

皆さんはもう、空約束や言い訳や「私は現場にいなかった」というアリバイ作りにウンザリしています。皆さんは手をこまねいて、NGOの助けや、福祉の枠組みに頼ることや、決して実行に移されない親身の解決策など、待つことはしません。しかもそれらは例え為されたとしても、一時的に痛みを麻痺させるか、あるいは痛みに馴れさせるか…。むしろこの方が危機的です。One senses that the poor are no longer waiting.　皆さんは人生の主役でありたいと考えています。皆さんは有機組織的に、研鑽を積み、workし、要求を出し、そして何より、このvery special solidarityを実行します。このとても特別なsolidarity --- 苦しむ者達、the poorに地上においてあたえられ、しかし文明化によって忘れ去られた、乃至、このままでは間違いなく忘れ去られてしまう、このとても特別なsolidarityを実行します。

solidarityという言葉は今まで必ずしも良く受けとられてきたわけではありません。状況によっては、dirty（不正）を意味する言葉になることも、また、敢えて口にしない言葉になることもありました。しかしながらこの言葉は、単なる一時的なジェスチャーとしてのgenerosity（高潔さ）以上の意味を持っています。これは、community（訳注：語源はcommunion、霊性の交わりによりひとつになる聖体拝領）として考え行動することを意味します。即ちsolidarityという言葉の意味は、社会全構成員のlives(生活)は少数富裕者による財の私有に優先するということ。つまり、困窮や格差のstructural causes（構造的原因）に対するstruggleを意味します。これは、work, land, housingの欠乏、social and labour rightsの否定、に対するstruggleです。money帝国という破壊的現象に立ち向かうことを意味するとも言えます。強制移住、痛ましい移民、人身売買、薬物、戦争、暴力…。皆さんの多くが苦しんできたrealities、そして、transformせよと私達全員が召命を受けているrealitiesの全てに立ち向かうことを意味します。この様にsolidarityとは、その最も深い意味をunderstandするとき、歴史を形作る道であり、これこそpopular movementsが目指すものです。

私達のこの会合はideologyによって形作られるのではありません。また何か抽象的ideasによってworkするのでもありません。そうではなく先程私が陳べたようなrealitiesや、皆さんが私に教えて下さったrealitiesによってworkするのです。皆さんは実際の泥沼に足を取られ、生身のrealityに羽交い締めにされています。皆さんは、隣人達の気配、仲間であるpeople、自分達のstruggleを感じさせます！さあ、貴方のvoicesを --- 殆ど誰も聴いてくれなかった貴方のvoicesを聴かせましょう。何故、聴いてくれなかったのか。それは、貴方のvoicesが周章狼狽を生じさせるからです。貴方の叫びが厄介だからです。貴方が望む変革が諸々の人々にとって脅威だからです。見方を替えればこう言えます。即ち、貴方方が舞台に出て貴方方辺縁者にその効果が行き届かない限り、諸々の国際会議でしばしば俎上に載る良い提案も計画も、絵空事の願望となり案件領域に留まってしまうのです。

貧困問題は、困窮者をおとなしく手なずけ静かにさせる抑圧政策を進めることでは決して解決しません。また利他的という申し立ての裏で、他の誰か無抵抗におとしめられた者達が代わりに存在を否定されるのは見るに堪えません。もっと悪いことにそれは、裏に私的な動機や商業利益を隠していると分かります。「偽善者」とイエスならこの者達を呼ぶでしょう。対照的に、peoples自身が前へと進もうとする、特に若く極貧にあるmembersが前へと進もうとするのは、何と素晴らしいことでしょう。明るい未来を予感させる小さな風を感じます。この小さな風が希望の大風となることを私は期待します。

私達のこの会合は、とても具体的な望みが出発点です。それは、父母なら我が子に持たせたいと望むもの。誰にとっても手の届くものでなければならない。そう*land, housing and work*です。しかしながら今日、land, housing and workは多くの者にとって手の届かないものとなっています。私がこういうことを言うと、おかしなことに、教皇はcommunistだという者が現れます。この者達はunderstandしていないのです、貧しき者への愛こそ福音の核心だということを。即ち、貴方方が獲得しようとするland, housing and workは、sacred rights（聖なる権利、正しきこと）なのです。このclaim（権利主張）に何ら異常な所はありません。即ち、これこそ教会の社会教義そのものです。 land, housing and workは、本会合のテーマでもあります。ですから、ここで手短に一つ一つ考えてみましょう。

Land. 　創世のはじめに神は、ご自身のworkのstewardsとなる男と女を創られ、それを**耕し守るよう**命じました（創世記2:15）。さて、本大会には沢山の農業労働者（***campesinos*** スペイン語：農民、仲間）がお集まりですね。私は貴方方におめでとうございますと言いたい。何故なら貴方方は土地をケアし耕作し、communityの為にそうなさっているからです。他方、多くの兄弟姉妹***campesinos***が排除されているのを私は憂慮しています。このuproot（根こそぎ根絶やしにすること）は戦争や自然災害に依るものではありません。即ち、landや水資源の収奪、森林伐採、不適切な殺虫などにより、peopleが自分達のnative landからuprootされているのです。この悲惨なseparation（引き剥がし）は、形而下的に（physical）だけでなく、（訳注：量子論が発見したhidden realitiesを含む）実存的にも霊的にも（existential and spiritual as well）行われていると言えます。何故なら（訳補遺：これら形而上の特性は）彼等が耕し守るlandと関係深いからです。こうして、農村のcommunitiesとその特別な生き方は、たちの悪い衰退の危機にあり絶滅のおそれさえあるのです。

このたちの悪いglobal processのもう一つの側面は、飢餓問題です。食糧価格が、投機的金融によって一つの大衆商品のように操作されると、何百万人もの人々が飢餓に苦しめられ死んでいきます。と同時に、何トンもの食糧が捨てられるようになります。ただただ恥ずべきことしか起こしません。即ち飢餓は犯罪、食糧はan inalienable right（不可譲不可奪な権利）なのです。貴方方の幾人かがこうした問題を解決するために農業改革を提唱していることを私は承知しています。その方々にお教えしますが、国や地域によっては --- ここで、[Compendium of the Social Doctrine of the Church](http://www.vatican.va/roman_curia/pontifical_councils/justpeace/documents/rc_pc_justpeace_doc_20060526_compendio-dott-soc_en.html)を引用します --- 「農業改革は、政治的政策として必要であるだけでなくa moral obligation（倫理的義務）でもある」[[1]](#footnote-2)のです。

そう私だけがこう言っているのではありません。それは[Compendium of the Social Doctrine of the Church](http://www.vatican.va/roman_curia/pontifical_councils/justpeace/documents/rc_pc_justpeace_doc_20060526_compendio-dott-soc_en.html)にも記されています。ですから、農村家族の尊厳を守り、水資源と生命を守る皆さんのstruggleをどうか続けて下さい。全ての人間がこの地球の果実の恵を頂けるようにして下さい。

次にHousing。私の何時もの発言：家族毎に一つの住まいを、を繰り返します。ただ忘れてならないのは、二千年前宿屋に空きがなかったためにイエスは馬小屋でお生まれになったことです。更にその後ヘロデの魔の手が忍び寄ったために彼と両親はエジプトに逃げなければならなくなりました。現代においても住居のない家族が沢山います。住居など持ったことがない、または持っていたが様々な理由で住居を失ったのです。家族と住居は密接な関係があります。更に言えば、house（家屋）がhome（居宅、すみか）になるには、a community dimension（或る共同体的次元）が必要です。それはthe neighbourhood（私達の知る隣人性）です。正確に言うならば、the great family of humanity（人類という大きな家族）が形成されるのも、このthe neighbourhoodにおいてです。この形成は、人と人との直接の触れ合いに始まり、隣人として一緒に生活することに始まります。今日、巨大な都市に私達の幾人かは住んでいます。誇らしく、それがどんなに近代的か自慢げに誇示しています。しかしながらそれは、幸運な少数富裕者達に快適で多くの楽しみを与える一方で、何千もの隣人達、姉妹兄弟達、子ども達の住居が奪われることを前提に成立しているのです。優雅にも彼等はこう呼ばれます。即ち、‘street people’ or ‘without fixed abode(住居)’ or ‘urban camper’と。興味深いことに、不正義の世界は何と婉曲表現が多いのでしょう！　一人のperson、隔離された一人のperson、引き剥がされた一人のperson、困窮と飢餓に苦しむ一人のperson、この様な人が‘urban camper’と呼ばれるのです。実にelegantな表現ではありませんか。皆さん、気をつけて下さい。中にはそうと言い切れない場合もあるかもしれませんが、一般的に、その様な婉曲表現の裏にはa crime（犯罪）が潜んでいるのです。

摩天楼とshopping centresが立ち上がり、巨額の不動産取引が成立する都市に、私達の幾人かは暮らしています…。しかしながらそれは、自分達の或る部分を周辺地域へと移住させること、一部の人々を見捨てることで成り立っています。辺鄙な場所へ粗末な移住がなされたと聞くにつけ何と痛ましいことか、と感じます。もっとひどいのは、（訳注：映画｢ローマ教皇になる日まで｣の一場面を思い出して）打ち壊し決定のプラカードがついた家を見ることです。立ち退きを迫る暴力の映像、ブルドーザーが小さな家々を次々と壊していく様は、さながら戦争の一コマを見るように残虐です。しかもこれは今日も行われていることです。

貴方方の多くが暮らす密集スラム街においては、富裕街で忘れ去られた或る価値観が残っていることを皆さんは御存知でしょう。そこでは回廊が、単に移動のためにあるのでなく、the home、即ち近隣との絆（bonds）が鋳込まれる場所の延長、public areasとして機能し、豊かなpopular cultureを育みます。不健康な不信を乗り越え、異なる者達とintegrate（高次統合）し、更にその様なintegrationを新たな発展の元とするcitiesは、何とlovelyでしょう。その構築設計の中に、他者達を認める心を育てそれと繋がり一つになるspacesが充ちているcitiesは、何とlovelyでしょう。従って採るべき方策は、eradication（民族撲滅）でもmarginalization（辺境追放）でもなく、urban integration（都市による高次統合）なのです。更に言えば”integration”の言葉が全ての民族撲滅説を置き換える。即ち、場末を飾り立てる、貧困近隣地帯の上辺を取り繕う、慢性的社会病変に絵の具を塗り立てる、この様な計画にintegrationが取って代わることが必要です。こういうのを一種のcosmetic architectureというのですか？　いま流行の。そうではなくて、genuine and respectful integration（純粋で敬意に充ちた高次統合）によりそれらを治癒することが必要です。従って私達は今後も活動を続けます。全ての家族が居宅を持ち、全ての近隣地域に適切なインフラ（下水道、街路灯、ガス、舗装道路）が整備され、さらには、学校、病院または救急クリニック、スポーツ・クラブ、等々が人々の絆を育て一つにするよう私達は活動を続けます。また既に言いましたように、ヘルス・ケア、教育、しっかり整備された借地借家権制度、を誰もが享受できるようにすることも重要です。

三番目にWork（訳注：labourではない）。必要財が満たされない貧困ほど酷いものはありません。これを特に強調しておきます。パン代を稼ぐ仕事に人々を就けなくし、workする尊厳を奪う、これほど酷い貧困はありません。また、若者の失業、informal（非公式）または裏のwork、labour rightsの不足充、これらは避けられないものではありません。これらは、元を質（ただ）せば、利益を人間より上のものとする経済システムを社会が好んで選択した結果なのです。経済的利益が個々人や人間性に優先するものとされれば、人間性あるいは人間は、単なる消費財であり使い捨てにしてよいとする人間使い捨て文化が生じます。

今日、搾取と抑圧の現象に新たな次元が加わりつつあります。とても苛酷で生々しい社会不正義の顕在化です。即ち、高次統合されない人々排除された人々が、単なるleftovers（食べ残し、残飯）として見捨てられるのです。これが人間使い捨て文化です。付け加えると、今思い出したので、書きものはないのですが、これはthe deity of money（お金という神、訳注：deityには適当な和訳が無い）が、man（人間）あるいはhuman personをさしおいて経済システムの中心に据えられたとき起きてしまうのです。そう、全ての社会あるいは経済システムの中心にあるべきは、the person、神の似姿、to “have dominion over” the universeとされ創造されたthe personです。the personが置き換えられmoneyがthe deityとされるとき、この様な価値観の逆転が起きてしまうのです。

西暦1200年頃の教えにこの点を説明したものがあります。一人のユダヤ教ラビが信徒達にバベルの塔の話を説明しています。その建造に要した尋常でない労苦を説明します。まずレンガ作り。泥と干し草を混ぜて手で揉み込みます。それを四角く切りそろえて、日干しにし火にかけて焼き固める。冷やした後、滑車で引き揚げて塔を建設する。

一つでもレンガ積みに失敗すると、全ての工程の中でレンガはとても高価ですから、それこそ国を揺るがす一大事です。ですからレンガを落とした者は誰でも、つるし首のような厳罰に処せられます。しかしworkerが足場から落ちても、誰も罰せられません。これこそthe personがmoneyという神に奉仕するというおかしな状況です。こう、ユダヤ教ラビは西暦1200年頃、この酷い出来事を説明しました。

この様な人間使い捨て文化について考えてみると、私達の社会に今起こっていることに注意を払うべきだと気付きます。Evangelii Gaudiumで述べたことをここでも言いたいと思います。即ち今日、多くの国・地域で出生率が低下し（訳補遺：それを補うために）子供達が売り買いの対象にされています。あるいは単に食糧がないために、生まれる前に中絶死されています。つまり、子供達が使い捨てにされているのです。

老人達も、生産性が低い使い道がないという理由で、不要物としてただ捨てられています。多かれ少なかれ世俗にまみれた経済システムにおいては、子供達も老人達も経済的価値を生まないとされ、徐々に見捨てられていきます。それだけではありません。これに言及するには心の平静を取り戻す必要がありますが、最近の世界経済危機（訳注：2008年）において三つ目の痛ましい人間使い捨て、即ち、若者達（young people）の使い捨てが起きました。何百万人もの若者達が --- 私は正確な数を知りませんし数えたくもありません。また、私が読んだ本は少し多めに見積もったのかもしれませんが --- とにかく何百万人もの若者達がworkが無く捨てられ、あるいはemployment（雇用）を失ったのです。

欧州の国・地域では統計が整っています。例えばここイタリアでは、40％強の若者達が失業しています。40％強の若者達が失業していることの重大さがお分かりですか。そう、一つの世代がまるまる消されてしまったのです、単に貸借対照表をバランスさせるという理由で。別の欧州の国ではそれは50%を超えており、南の地域では60％に達します。ハッキリと分かる数字でこれほどガレキとして捨てられた者達がいるのです。経済的価値を生まないという理由で子供達老人達が見捨てられ、更に若者達がまるまる世代ごと犠牲となっています。peopleが捨てられている。それはhuman personでなくthe deity moneyが中心に据えられた経済システムのバランスを回復させる、あるいはテコ入れするという理由でpeopleが捨てられているのです。

この様な人間使い捨て文化、食い散らかし文化にあっても、この経済システムに見捨てられ排除されたworkersである皆さんは、自らのworkを発明し続けています。即ち、もはや価値を生まないと見なされたものを使って…、（訳補遺：家作りの捨てた石が隅の親石となる。これは人の目には不思議なこと）、自らのworkを発明し続けています。神が貴方方に与えたcraftsmanship、貴方方の創意工夫、貴方方のsolidarity、貴方方のcommunity work、即ち貴方方のpopular economyによって、貴方方は営々と生活（succeed）し続けてきましたしこれからも生活し続いていくのです…。こう言わせて下さい。これはworkと言っても勿論構わないのですがむしろpoetryといえるのではないでしょうか。皆さんに感謝します。

今後は、全てのworkersは、給与支給の雇用形態であれそれ以外の形態であれ、適切な報酬を得て社会保障と年金を獲得する権利（right）を当然に持つと考えられます。ここにいらっしゃる皆さんの中には、廃棄物収集者、リサイクル業、行商人、裁縫職者、仕立屋、熟練工匠、漁業者、農場労働者、建築業、鉱山採掘業者、既に廃業となった企業のworkers、色々な種類のcooperativeのmembers、等々つまり、labour rightsによっては保護されないgrassroots jobs（草の根課題）を行うworkersもいらっしゃると思います。これらの人々は、労働組合を作れず、その所得は不安定で不相応です。今日私は、この様な皆さんのvoiceに私のvoiceを加え、皆さんのstruggleのsupportになりたいと思います。

本会合中に、平和とエコロジーについても皆さんは話合いを持ちました。それは理に適っています。というのは、もし平和を保てずこの惑星地球を壊してしまうならば、landもhousingもworkも叶わぬものとなってしまうからです。ですからこれらの話題は、the peoples of the worldとその popular organizationsがキチンと討論しなければならない重要なテーマなのです。政治家達に任せておけば良いというテーマではありません。この地球に住む全てのpeoples、good willを持つ全ての男女、即ち私達全員が自らvoicesをあげて、これら貴重な二つの賜物、つまり、アシジの聖フランシスコが“Sister Mother Earth”と呼んだ自然環境および平和を守っていかなければなりません。

最近私が言っていることを、ここで繰り返します。私達は今、言わば月賦払いで買ってしまった第三次世界大戦に苦しんでいます。即ちbalance sheets (貸借対照表)を持つタイプの諸々の経済は、人間をカネという偶像に取り付かれた亡者とし、武器の製造販売を極めて健全なものと感じさせてしまいます。従ってこの経済システムは生き伸びるために必ず戦争を起こしてしまいます。この経済システムは、難民キャンプで飢餓に苦しむ子供達に思いを致すことはありません。彼等に難民となることを強制したのだと気付くこともありません。遂には、何人もの人が殺されようが全く気にしません。その惨状、破壊、悲嘆は、いかばかりでしょう。皆さん今こそ、War no more!の声を挙げましょう。この地球の全地域、全nations、全ての心、全ての草の根運動の皆さん、親愛なる兄弟姉妹の皆さん、平和を求める叫びを挙げましょう。

the deity moneyを中心に据えた経済システムは、人間の消費活動を、この経済システムが必要とする熱狂的水準に保つために、自然環境を必ず蹂躙します。気候変動、生物多様性の減少、森林破壊、等々私達がまのあたりにする大変動は、この経済システムが持つ破壊力が既に現れていることを示しています。また、この被害を最も受けるのは素朴な生活をおくる人々 --- 浜辺近くに質素な住まいを構える人々です。つまり、この経済システムにおいて弱者となる人々が、こうした自然災害のために全てを失ってしまうのです。兄弟姉妹の皆さん、地球（creation）は私達が思うがままに勝手に使って良い私有物ではありません。ましてや、幾人かの少数富裕者の私有財産では断じてありません。地球はa giftなのです。プレゼントなのです。神が私達に与えて下さった驚くべきgiftなのです。ですから私達はこれをケアし、常に感謝をもって、常に敬意を払って皆のbenefitとなるようにこれを使うのです。皆さん御存知でしょう。私がエコロジーに関する回勅を準備していること。ご安心下さい。この中で皆さんの懸念事項が言及されています。皆さんに感謝しつつ、この機会に、このテーマに関し手紙を下さった***Via Campesina***（農民の道、国際農業者団体）およびthe Federation of ***Cartoneros***そして他の沢山の兄弟姉妹の皆さんに感謝します。

さてland, work, housingに戻りましょう。私達は平和のためにworkし自然環境のケアを行います。この様なdecent work（妥当な活動）が壊されることに私達はもう馴れてしまいましたが、それは何故でしょうか。沢山の家族が強制退去を命じられ、農村の農業労働者達が土地から引き剥がされ、戦争で儲ける者や自然が破壊されるのが当たり前になってしまいましたが、それは何故でしょうか。それは、この経済システムではman即ちhuman personがその中心から外されて、そこに別の何かが据えられてしまったからです。それは、moneyに偶像崇拝が献げられてしまっているからです。それは、「私のものに影響を及ぼさないのに、他人に起きていることに私が何故気にしなければならないのか」という無関心がglobalizedしてしまったからです。それはこの地上世界が、父である神のことを忘れ、神をないがしろにし、自らを孤児としてしまったからです。

こんな経済システムは長続きしない、という人がいるかもしれません。しかし私達自らがこれを変える必要があります。人間の尊厳（human dignity）を中心に戻し、それを支柱として社会構造そのものを変える必要があります。これには勇気と共に知性が必要となります。頑固だけれども狂信でなく、熱情的だけれども暴力的でなく。そして私達全員で一緒に、紛争に巻き込まれることなくこれを解決し、緊張関係を解くことに常に集中しましょう。結束、平和、正義に関して一段高次の地平を目指しましょう。私達キリスト者は素晴らしい何かを持っています。行動の案内人、革命的と言える計画。マタイ福音書5:3とルカ福音書6:20にある八福の教え、あるいは、マタイ福音書25章にある最後の審判に関する幾つかのたとえを、お読みになることを心よりお勧めします。これはリオデジャネイロで若者達に話したことでもあります。これらのたとえから行動計画を起こしなさいと。

ここにお集まりの皆さんが、様々な宗教、業界、考え方、文化、国・地域、大陸を背景にしたpersonsであることを承知しています。そう、今ここで皆さんは正に出会いの文化を実践しているのです。外国人嫌いとは全く違います。人種差別や散見される不寛容主義とは異なります。またこうも言えます。群れない人々（the excluded）が一緒になれば、諸文化の出会いが生まれこそすれ、それぞれ特殊性を持つ人々を弾き飛ばすような塊になることはない。だから私は、多面体のイメージが好きなのです。異なる面を沢山持つ幾何学的多面体。この様な多面体は、それぞれのoriginalityを内に保ったまま部分部分が合流して一体となっています。どの集団も解散しません。どの特性も破壊されません、しかし支配的になることもありません。全てが高次統合されるのです。今日皆さんは既に、localとglobalの間でこの様な合成を模索していらっしゃるかもしれません。自分の地域、自分の近隣、自分の職場で、手近で具体的なテーマに関しては、模索していらっしゃるかもしれません。その皆さんが、より広範囲な観点でこの種の模索を続けるようお勧めします。そうすれば、私達の夢は空高くまで昇り、全体を活かすことが出来るようになるでしょう。

これらに加えて、私達が共有するこの提案に一つとても重要な点を指摘したいと思います。私達の諸運動 --- 即ち、この地球の底土から生じたボトムアップ型のsolidarityの体験は、一体のものとならなければならない。もっとcoordinateされなければならない。お互いに会って話をすることを続けなければならない、皆さんが今、日々行っているように…。ここで、注意したいのは、固定した構造に運動を制限するのは決して良くないということです。ですから、この様な会合を続けるのが良いと思います。また、ある運動を別の運動が飲み込もうとするのはいけません。支配したり指示したりするのもいけません。拘束されない運動はそれ自身、動力学を持ちます。アッ、難しくなってきましたか、ならばそう、私達は一緒に歩いて行こうではありませんか。今私達は旧シノドス・ホールにいます。（今は新しいのがあります。）シノドスとは、まさしく「一緒に歩く」ことを意味します。これが、皆さんが始めた、またこれから行うプロセスのシンボルとなりますように。

草の根の諸運動は、私達のdemocracies実現の緊急性を表しています。それは過去様々な因子によってハイジャックされてきました。確かに、大きな多数派が活発な主役となってparticipate（社会参加）することがない未来の社会を想像するのは不可能です。しかし、その様な多数派の社会参加は、形式的democracyの論理手続の形を押し流してしまいます。ですから、持続する平和と正義を地上世界にもたらすには、paternalistic（家父長的）な形の支援以上のことを行う力を私達は持たなければなりません。即ち、様々なpopular movementsから構成されるparticipation（社会参加）の新たな形を、創り出すことが必要なのです。また、local, national and international governing structuresが、生き生きとしてa common destinyを構築するためには、排除された者達を包摂する、湧き出る奔流のようなmoral energyが必要です。しかもこれら全てが、建設的精神によって、恨み無しに、愛によって行われることが必要です。

私は心を込めて、貴方方の旅の仲間になります。ご一緒に心から唱えましょう。家のない家族はあり得ず、土地のない農民はあり得ず、rights（権利）のないworkerはあり得ない。また、尊厳のない人はあり得ない、何故ならworkが尊厳を必ず与えるから。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、皆さんのstruggleをどうかお続け下さい。皆さんは、人類全体に神の恵みのような善を行っています。本会合の参加記念品としてロザリオを用意しました。南米の農民や廃品回収業などgrassroots workersが製作したものです。どうかお受け取り下さい。祝別します。

このロザリオに込めて、皆さんのために皆さんと共に祈ります。父なる神が皆さんと共にあり、恵を下さいますように。神の愛が皆さんと共にあり、この旅の途上、同伴者となって下さいますように。どうか、力を豊かに注いで下さい、私達が決意を胸に堂々と立てるように。

この力は希望、私達を決してくじけさせない希望。ありがとうございます。

1. *Compendium of the Social Doctrine of the Church*, § 300. [↑](#footnote-ref-2)